

第 55 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 27 年 10 月 23 日(月) 午前 10 : 30 ~ 12 : 00

2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室

3. 委員の出席 委員総数 7 名

出席委員 6 名

出席委員の氏名 稲垣千秋、牧野直子、稲井信也、
中村保、高谷和彦、須貝昭子

欠席委員の氏名 桑田政美

放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
小川 亮 (編成課員)

4. 議 題 1) 番組 スペシャル公開生放送「タッキー大集合！」
2) 審議
3) その他番組に対する意見

5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

今回は会社設立 20 周年を記念して実施したイベントの公開放送をお聞きいただきました。会社設立 20 周年を記念し、社内の各部門の連携をはかり、力を結集させたイベントとして約 1 年かけて企画してまいりました。箕面の情報を網羅し、ラジオや情報紙などさまざまなメディアで発信できる会社でありながら、生かしきれていないという課題を解決し、また、ターゲットは次世代を担う 20～40 代の子育てファミリーに絞って、20 周年イベントチームを設けて話し合いを重ねてきました。イベントとしては箕面の魅力的なお店の出店、ワークショップを招集し、それらを放送に取り込みながら、20 年間で築いたネットワークを生かした出演者で構成し、会場のお客様にも参加していただける内容を盛り込みました。

また、地域通貨「まーぶ」を取り入れ、子どもたちがイベントやステージのお手伝いを「仕事」として行い、その対価として得た「まーぶ」で、会場内で飲食や遊ぶことができる仕組みも取り入れました。「まーぶ」の子どもたちは、音楽ライブでアーティストの歌をコーラスで助けたり、一緒に踊ったり、会場レポートや、ステージ AD としてクイズの問題の紙を持ってもらったり、拍手や手拍子で盛り上げてもらいました。

さらに、大きな箕面のまちを描くワークショップと放送を連動させ、ワークショップで子どもたちが描いた絵を、随時ステージ上の巨大な絵にコラージュして、5 時間の放送の中で巨大な 1 枚の絵を完成させました。

お聴きいただいた内容は、5 時間の公開放送の抜粋です。倉田哲郎箕面市長のお話、箕面姉妹デュオ大使「sky」のステージ、まーぶの子どもたちによる会場レポート、20 周年を記念して作った「タッキーソング」の合唱部分です。

(2) 審 議

委員長：ただいま番組の説明がありました。それでは番組審議をお願いします。

委員A：お天気に恵まれて、たくさんの若い世代のかたが来られて、楽しまわいて、いいイベントだったと思っています。放送については、現場の雰囲気伝えるのは本当に難しいですね。見ていない人にその場の雰囲気を分かってもらうのは本当に難しい。市長とのインタビューは分かりやすかったですが、会場の雰囲気や情景描写など、視覚でしか分からないことを音だけで伝える難しさも感じました。技術的なことかもしれませんが、子どもの声が少し聞こえにくい箇所もありました。

委員長：現地での盛り上がりと、放送的には情景の補完的な説明があった方がいいですし、バランスは難しいですね。その辺りは事務局としてどのようにお考えですか。

事務局：会場の音を拾うマイクを設営していました。子どもの声ですが、よくしゃべる子どもと、しゃべるのが苦手な子どもがいます。返事に困って黙る子どもがいたら、その部分を補完するためにパーソナリティがしゃべる場面はありました。

委員A：子どもさんの場合は難しいですよ。それだけにパーソナリティのテンションの高さが目立って、落差を感じました。

委員B：出演者のステージおもしろかったですね。LuckDuck も何度も聞いていますが、楽しい音楽ステージでした。タッキーのパーソナリティが全員集合という企画は身近に感じていいですね。それと、子どもが参加できる企画もいいですね。ただ、臨場感を出す工夫が必要でしょう。拍手があるだけでも印象は変わります。実際は会場から反応があったのでしようが、放送的には聞こえないので、寂しい印象です。盛り上がっているのですが、もったいないです。

委員C：会場に行きました。拍手もあったりし盛り上がっていて良かったです。

現地にいないリスナーの立場で聞くと、やはり放送だけでは状況説明が不十分な感じはしました。倉田市長がタッキーの成り立ちであったり、市役所職員時代にタッキーを知ってもらうために陰ながらやっておられた努力などを聞くことができたのはとてもおもしろかったです。せっかく、大きな絵をみんなで作るワークショップをしたのであれば、もう少し放送内でも取り上げた方が良かった気はしました。後は色々な場面場面で子どもの活躍の場も多くて、全体としてはいい番組だったとリスナーの視点でも思いました。

委員D：イベントとしての感想と番組審議としての感想があります。ラジオでの伝わり方も気になったので、現地にいながらあえてカーラジオから聞いてみたんです。音だけだと会場の臨場感がラジオではなかなか伝わってこなかった気がしました。放送以外にもいろいろなイベントをやっている会社なんだろうなということはリスナーにも伝えられる放送内容だったとは思います。

委員E：一つ一つの企画もよく練り込まれていました。どのコーナーもおもしろかったです。20代30代の子育てファミリー狙いのイベントとしては成功だと思います。最後の「タッキーソング」も歌いやすくて元気でいい歌だなという印象です。お祭りのムードは良かったと思いましたが、ラジオで聞く分には、少し貧弱ですね。わっとにぎやかな感じはなかったです。その辺りは課題として残りますね。うまいパーソナリティは五感を言葉に変えて伝える。聞いている人を納得させる。現地のもう一つのムードに押されてその辺は疎かになっていたかもしれないね。聞いているだけで、楽しくなるような放送でないと聞かないし、会場にも来ないですからね。今後の対応は考えていくべきです。

事務局：欠席の委員さんのコメントを預かっています。「『さまざまな場面で参加型の工夫を取り入れ、パーソナリティ全員で20年の感謝の気持ちを伝えました』とあるように、限られた放送時間の枠内で工夫をされたおり、何も注文を付けることはありません。番組とは別にイベントについてですが、来場者の中にはタッキー816って何？というかたもいらっしやいましたので、番組表やステッカーの配布も必要だったの

ではないでしょうか。20代～30代をターゲットにもってくるなら、放送でも月曜から金曜まで同じ時間にターゲット層向けの情報を放送するように工夫することが必要だと考えます」ということでした

委員長：スタッフや社員のみなさんの頑張りは感じました。だからと言って、イベント自体が100点ということではないんですが、あれだけのものを作れたことには感心しました。こういったイベントができるから、いい放送もできるんだ、といい評価をいただけるようになればと思っています。

委員B：「タッキーソング」は本当は盛り上げたかったところですけど、観客はあんまり歌ってなかった。少しリハーサルして会場も巻き込むとかしないと、ステージだけが盛り上がってしまってもったいなかったです。本番前にディレクターがこのタイミングで拍手とか観客に指示したりしないと、その場の一体感は出にくいですよ。

委員長：みなさん貴重なご意見どうもありがとうございました。今回は今までにないタイプの番組でしたので、新しい意見も多くありました。その辺りも踏まえて、積み上げていっていただけたらと思います。本日はみなさんありがとうございました。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 27 年 10 月 23 日

箕面FMまちそだて株式会社 番組審議会